



資料3

平成28年度 高精度測位社会プロジェクト実施内容について

平成29年3月14日
高精度測位社会プロジェクト事務局

1. 平成28年度高精度測位社会プロジェクト検討会実施体制



高精度測位社会プロジェクト検討会

- 構成メンバー: 有識者(東京大学 柴崎教授、東京大学 越塚教授、(一財)日本情報経済社会推進協会 坂下常務理事)、関係者(JR東日本、JR東海、東京地下鉄、京成電鉄、三菱地所、三井不動産、成田空港、羽田空港、NTT、JR東日本コンサルタンツ、JTB、東京空港交通、京成バス、新宿ターミナル協議会事務局、オリパラ組織委員会)
地方公共団体(東京都、千代田区、成田市、横浜市・横浜市体育協会)
- 事務局: 国土交通省 国土政策局、NTTデータ

屋内外シームレス測位サービス実証実験グループ

実証実験実施にあたっての調整及び計画の合意

- 活動内容: 平成28年度における実証実験の調整・実施
実証実験の実施結果の取りまとめ及び今後の展開に向けた課題の抽出
- 構成メンバー: 関係施設管理者、サービス事業者、地方公共団体 等
アドバイザー 検討会有識者メンバー(柴崎教授、越塚教授、坂下常務理事)
慶應義塾大学 神武准教授、立命館大学 西尾教授、名古屋大学 河口教授
- 事務局: 国土交通省 国土政策局、NTTデータ

推進体制検討ワーキンググループ

屋内地図の整備・更新・流通を推進する体制の具体化に係る検討事項の合意

- 検討内容: 事業モデル及び運営に係る課題の整理
地図素材の収集や加工等に係る課題と対応方針
- 構成メンバー: 施設管理者、地図調製業者、設備管理者、地方公共団体 等 (サービス事業者から適宜ヒアリング)
- 事務局: 国土交通省 国土政策局、価値総合研究所

3次元地理空間情報を活用した
安全・安心・快適な社会実現のための技術開発
【国土地理院】

ICTを活用した
歩行者移動支援
【総合政策局】



民間等における
他の取組

2. 平成28年度取組内容



①空間情報インフラの整備・活用の検討

(1) 空間情報インフラの整備

- 東京駅周辺、新宿駅周辺、成田空港、日産スタジアムにおける屋内地図の作成
- 測位環境の整備
 - ビーコン設置数
 - 東京駅周辺： 約300個
 - 新宿駅周辺： 約180個
 - 成田空港： 約500個
 - 日産スタジアム： 約130個
 - Wi-Fi電波調査（全エリア）



(2) 空間情報インフラを活用したサービス実証

- ナビゲーションアプリ「ジャパンスmartナビ」の試作、一般公開
- 車いす利用者等向けの案内サービス実証、英語対応、Android端末・iOS端末対応
- 民間アプリ事業者によるサービス実証、アイデアソン/ハッカソン

②空間情報インフラを継続的に維持・更新する体制の検討

(1) 屋内地図の整備、更新、流通を民間主体で推進する仕組み・体制の具体化

- #### (2) 屋内外シームレスな測位環境を活用し、商業・人流を通じた多様なサービス産業創出に向けた、屋内測位機器の設置指針等の補完

3. 平成28年度検討会・WG実施結果



	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討会		第1回 ・検討会の設置 ・実証実験Gの設置 ・実証実験概要 ・今後の予定 等			第2回 ・実証実験実施計画 ・推進検討WGの設置 ・推進検討WGの検討状況 ・今後の予定 等			第3回 ・実証実験結果報告 ・推進検討WG報告 ・H29年度以降の取組 等	
		実証実験に向けた準備 (実施計画作成、実証用地図作成、測位機器設置、アプリ試作 等)				事務局アプリ実証 (一般公開) 民間アプリ事業者によるサービス実証			
実証実験G		アイデアソン ハッカソン				「屋内測位環境構築ガイドライン」の策定			
		多様なサービス創出のための測位測位機器の設置に関する検討							
推進検討WG		今年度検討方針の提示	WGメンバー調整			事業モデル及び運営に係る課題の整理			推進体制の活動方針
		地図素材の収集・加工等に係る課題と対応方針の検討							

4. これまでの検討会でのコメント



今後の普及展開に向けて、実証実験を通じた知見の整理（ガイドライン化）を実施。
実証実験の関係者やサービス事業者の方々と連携し課題・アクションプランの整理を実施。

分類	主なポイント	実施概要
プロジェクトの目的	<p>【第一回】</p> <ul style="list-style-type: none">・本事業では、出口を検討することが重要 <p>【第二回】</p> <ul style="list-style-type: none">・実験成果や得られた知見を整理し、まとめることで普及・認知に努めるべき	<p>実証実験の知見を今後同様の事業に取り組む者が参考にできるよう、報告書・ガイドラインとして整理した。</p>
普及展開の「仲間作り」	<p>【第一回】</p> <ul style="list-style-type: none">・現状は、技術実証や仕組み作りの議論が中心的な話題だが、実証環境の提供や実装そのものを支援してくれる“お仲間”を如何に増やしていくか。・普及展開に向けて、実証実験等での様々な事業者と連携を深めて進めていくべき。 <p>【第二回】</p> <ul style="list-style-type: none">・普及を考えると施設管理者の協力は不可欠。リアルタイムに施設管理者との情報のやり取りが必要になるなど、単にビジネスモデルとは違う次元での検討が必要。・セーフガードが機能するためには、この検討会のような連絡会を作る必要がある。	<p>本事業に関与する、交通事業者、施設管理者、サービス事業者と議論を実施し、今後の連携の必要性について共通認識を持つことができた。今後も実証エリアの継続維持・そこでの事業者間連携事業の推進など、取り組むべき方向性を共有できた。</p>

4. これまでの検討会でのコメント



分類	主なポイント	実施概要
成果の横展開	<p>【第一回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内測位環境の整備を検討している地域（札幌市）などで、独自のしくみではなく、同じようなものが構築できる必要がある ・日産スタジアムの実証内容を他の建設予定の競技場へ展開することについても同様。 ・東京オリンピック・パラリンピックに向けては、アプリの開発・試行を31年度には行いたいところ。早めに成果が展開できれば、様々なアプリの開発が可能になるのでは <p>【第二回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリパラの会場は点在しており、その間に世界一稠密な公共交通網、道路網があり、海外から来た方を円滑に案内するというプランがあるので、今後も本プロジェクトと連携していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のエリアで実施されている屋内測位実証との情報連携を行い、普及展開に向けたポイントを整理した。 ・事務局アプリを障がい者（車いす利用者）、外国人それぞれに利用してもらい、サービス（アプリケーション）に求められるニーズを整理した。今後サービス展開する者への参考とすべく報告書に取りまとめた。
サービスの拡がり	<p>【第一回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市型災害の際には、その空間にどれだけ人がいたのか把握することが非常に重要。ICTを活用し位置情報を把握することで災害対応の効率が向上する。 ・人流情報の把握は、災害時のみならず屋内空間での様々なサービス向上が期待できる。 <p>【第二回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災時の誘導では、その移動中の人のデータをどうハンドリングするかが論点になっている。今後これら収集したデータのアクセスについて標準化が進み利用しやすい環境ができる可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業に関与する、交通事業者、施設管理者、サービス事業者と議論を実施し、災害時と通常時のデュアルユースを目指したサービス実現が、今取り組むべき方向性であると整理した。